

【真室川町】 校務 DX 計画

児童生徒一人一人の学習ペースやニーズが多様化する中で、個別指導や特別支援が求められる場面が増えており、働き方改革の検討は急務となっている。そのため、児童生徒一人一人の学習進捗やニーズに合わせた支援が可能となるシステムを導入し、個別指導を強化するとともに、学習支援ソフトやデータ分析を活用することで、より精度の高い学習支援を提供する。また、ペーパーレス化やデジタルツールの活用により、効率的なデータ管理を実現し、コスト削減及び教職員の負担軽減を図り、持続可能な学校運営を目指す。

1. データ活用と教育の個別化

学習支援ソフトの導入により、各児童生徒の学習パフォーマンスや理解度をリアルタイムで追跡する。児童生徒の学習進捗をデータとして収集・分析し、個別に最適化された指導を行う。

2. ペーパーレス化の推進

文書のデジタル化を進め、タブレットや大型提示装置、連絡ツールなどを利用することで、紙の使用を最小限にし、環境負荷を減らすと同時に書類管理の効率を図る。また、FAX や押印の見直しも行い、業務の負担軽減を図る。

3. 次世代の校務システム

次世代の校務システムにおいては、統合型の校務支援システムの導入が不可欠となるため、必要な環境整備について、県と連携しながら検討していく。

4. ICT支援員との連携

学校がDXやCBTでの不安や悩み事がある場合には委員会、ICT支援員が相談や助言を行う。また、教職員に対し定期的に研修会を行う。

5. リスク管理

デジタル化を推進していくことで、児童生徒や教職員の個人情報の漏洩、サイバー攻撃のリスク増大が懸念される。多要素認証の導入や暗号化といった強固なセキュリティ対策により情報漏洩を防止し、定期的なセキュリティ診断、保守による脆弱性の検出・修正を行う。また、教職員や児童生徒に対するセキュリティ研修を実施し、安全なデータの取扱いについて徹底する。